

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079500221
法人名	有限会社 元気の里
事業所名	グループホーム 元気の里
所在地	福岡県 田川郡 糸田町 下糸田 2475
自己評価作成日	平成23年7月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年8月17日	評価結果確定日	平成23年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を田畑に囲まれた閑静な立地であり、利用者さまに落ち着いた環境でゆったりとした生活を送っていただけるようにしている。また、食事について、地元の野菜や新鮮な魚を用い、手作りにこだわったものを用意させていただいており、大変好評を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の方より「元気の里に来て、本当に元気になりました。この[元気の里]という名前がいいですね。食事もおいしく、いつも新鮮な物が食べられます」という声を聞く事ができた。そこには利用者の笑顔があり、生活に満足していることが推測できる場面であった。  
散歩コースとなっている自家農園では、季節の野菜の成長・収穫を楽しみ、採れたての旬の野菜が食卓を彩り、食することも楽しみとなっている。  
今年の9月には、直方市の温泉施設に一泊二日の旅行を計画しており、利用者・職員は全員参加し、家族にも参加を呼び掛けて一緒に旅行を楽しむ予定である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・思いやりをもって笑顔で優しく声かけをします。 ・安全で快適な環境作りをします ・地域との交流を大切にします 以上3点の「ホームの理念」を職員で作成した	グループホーム元気の里の3つの理念は、朝夕の申し送り時に毎回唱和し、意識付けを行っている。また、「笑顔で挨拶」「言葉でふれあい」を事務所に掲げ、理念と共に実践に取り組んでいる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの敷地で毎年納涼大会を行っており、育成会・青年会・婦人会等の方々の協力にて盛況に開催されている。地域行事として定着しており、入居者も一緒に楽しんでいる。「こども110番の家」に登録しており、見守りや声掛けに協力している。自然な形で、地域との付き合いがある。	地区主催の納涼大会では、ホーム敷地を提供し地域の方々との協力しながらお祭りに参加している。ホームは通学路沿いにあり、児童がお茶を飲みに来たり、トイレを借りに来たり、手を振って行ったりと何気ない交流が出来ている。「こども110番の家」にも登録しており、地域の安心安全の場となっている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホールで過ごす利用者の姿が往来を行く人々の目に止まり、認知症の方の実像の理解に役立っていると思われる。また、散歩の際にはすれ違う人達と挨拶を交わし、認知症の人に対する偏見の解消になっていると思われる。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域・行政等、各方面からの出席により、2ヶ月に一度定期的に開催している。行事の案内、報告、火災報知機の説明、小学校との交流等に付いて話し合いが行われている。ホームの状況について理解をはぐくみ、率直な意見交換の場にもなっており、有意義な開催となっている	構成員として、利用者、家族、区長や民生委員、町職員からなり、定期的に開催されている。今年の8月からは地域包括支援センター職員がメンバーに加わり、活発な意見交換、情報交換・共有ができるようになっている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当職員へは、疑問や質問があればその都度相談し、助言を得ている。解決出来ない場合は件の担当者へ繋いでくれる等、町役場と一体となりサービス向上に取り組んでいる。	不明な点があれば、すぐに相談し助言をもらっている。ケースワーカーとも情報交換を行い、利用者の情報共有や相談、助言をもらう等、町の職員との良好な関係が築かれている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフミーティングの場で職員に周知徹底を図り、また防止マニュアルも作成している。玄関の施錠も夜間(防犯目的のため)以外は行っていない。	年1回は身体拘束についての研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は「言葉による拘束」を認識しており、言葉には十分気をつけてケアに取り組んでいる。センサーに頼らず、見守りでのケアを実践している。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフミーティングの場で苑内研修を行い、職員の知識の向上と虐待の防止に努めた。	

福岡県 グループホーム 元気の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度について利用している入居者はいないが、必要時に支援できるか疑問ではある。管理者や責任者が研修等に参加し、知識を深め、必要になった場合に対応できるようにしておきたい。	管理者が年2回程外部研修に参加し、その後内部研修にて伝達し職員で共有している。今後、町職員による研修会も予定しており、推進会議のメンバーも研修に参加する予定となっている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明を口頭と書面で行い、入居者により良い日々を送っていただけるように十分話し合っている		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一応苦情相談窓口を設けているが職員などへ意見・苦情を言われた時にはみんなで検討して善処している	面会時には必ず声をかけ、家族の意向や意見、苦情、相談等がないか、聴き取りを行っている。意見箱へ意見等が入ることはないが、入居者、家族と共に一泊旅行を企画する等、コミュニケーションを図りながら、意見の言いやすい関係作りを行っている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティングの時は意見など言ってもらい話し合う。また、日々の中で提案などあった場合は申し送りノートで問題を共有している	月1回のミーティング時に職員の意見を聞く機会を設けている。以前は夜勤入りの職員もミーティングに参加していたが、職員の意見を反映させ、夜勤入りの職員は参加しなくていいようになる等、柔軟に対応している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2ヶ月に1回の利用者、家族、地域の方と推進会議を行い、毎月のミーティング時に代表者が現状報告、推進会議における評価内容等を報告し、職員との意見交換を行っている。給与、労働時間および勤務内容、退職者が出た場合などについては規定に基づいた見直しを行っている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	いきいきと勤務してもらう事は入居者に反映すると思っているので気持ちよく勤務できるようにと思っている	現在40代から60代の職員が在籍している。定年制は設けていない。状況や事情、年齢に応じて勤務時間への配慮を行う等、心身の負担が軽減できるよう配慮している。採用に至っては「明るくて人間が好きな人」を重視している。無資格者の採用後は、ヘルパー2級を取得できるよう、勤務調整への配慮を行っている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人生の先輩として尊敬の念をもって接するよう指導に心掛けている	外部研修やグループホーム協議会主催の研修に参加し、ミーティング時に報告し職員間で共有している。	

福岡県 グループホーム 元気の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会にも最初から入会し研修の場を与えてもらえるのでなるべく出席したいと思っている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会Fブロックに所属し、時には勉強会のみでなく情報交換をし、お互いに向上していくことを望んでいる		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知の程度にもよるが、安心して入所生活をしていただくために声かけをして会話の場を設けている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の方と良く話し合いをし、また、随時気づいた事は話し合うようにしている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家庭での今までの生活を家族より聞き、これからのホームで生活の支援に参考とさせてもらっている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、一緒に生活しながら学ぶべき事は学び、意見の違いは話し合っって納得している。時には怒ったり、怒られたりもする		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と一緒に介助してもらったり、また助言していただいたりして本人を支えていく関係を少しずつではあるが築いている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問があった場合は気持ちよく過ごしていただけるよう配慮している。また、近くに行った時は馴染みの場所を回ってドライブして帰ったりしている	お友達が面会に来られ、お茶をしながら会話を楽しまれている。馴染みの美容室には家族が送迎し、帰りは美容室の方がホームまで送迎されており、連携・協力が得られている。	

福岡県 グループホーム 元気の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	みんな仲良くをモットーにゲームや手伝いを してもらって家族的な生活の中で関係を深 めるよう努力している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調良くしてサービス利用を終了した例が ないが、今後そういうことがあれば利用者家 族とは変わらぬ付き合いをしたいと思っている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	色々聞いてもなかなか意見が出ないので日 ごろの生活の中で気をつけて気持ちや希望 を把握できるよう努めている	1対1になる場面を大切に思いや意向の把握 に努めている。収集した情報は申し送り時に報 告しているが、記録には残していない。	利用者の言葉、表情、行動、反応等、 主観的情報と客観的情報を記録に残 し、プラン作りに反映されていくことを 期待します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	時々訪室したりホール内で会話をし、今まで の生活歴や暮らし方をうかがっている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を見て現状の把握を心掛けている		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	来苑された時に色々話し合い利用者一人一 人により良いケアが出来るようしている	プラン作成時には担当者会議を開催し、意見を 反映させている。モニタリングは3ヶ月に1回実 施している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に一日の記録をしておりケアの向上 に務めている		

福岡県 グループホーム 元気の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	考え付くかぎりの事はしているつもりである。危篤状態の入居者さんについて、ご家族の泊まりこみなどの対応をさせていただいた。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	何事かあれば民生委員と連絡をとり協力していただくつもりである。また年2回の防火訓練で消防の方には協力していただいている		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診のほか必要に応じて快く往診もしていただき、かかりつけの主治医を大切にしたい。もちろん家族には希望など十分にうかがっている	本人、家族の希望を尊重しており、もともとのかかりつけ医の受診支援を行っている。受診が困難な利用者には往診してもらい、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	経験豊富な看護職員がいて医師と連携をとりながら健康管理を支援している		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	直近にあった例では、人工肛門設置となった入居者へのケアについて、管理者・職員が病院へ赴き、看護師よりレクチャーを受けた。今後もこのような対応をとりたい。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携を推進するに当たり、家族・医師と話し合いをした	家族には入居時に看取りについての説明を行い、重度化した場合に医師、看護師を交えて話し合いを行い家族の意向を尊重している。ホームでの見取りを希望された場合は「看取り介護についての同意書」に同意を頂いている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング後、テキスト・マニュアルを使い勉強会や訓練を行い、新人については付いての指導を行っている。		

福岡県 グループホーム 元気の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練において職員に防災時の対応について学んでもらっている。また職員が地域の消防団に参加している	年2回火災、地震想定での避難訓練を実施している。10月に夜間想定での訓練を予定している。理事長は糸田町消防団団長であり、職員は団員として参加している。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや記録などの対応に気を配っている	各居室には暖簾を付けており、直接部屋が見れないよう配慮されている。毎月発行している「元気の里家族通信」では、個別記事、写真の掲載をしている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人本人の返答能力に合わせた説明を行い納得していただいているし希望があればうかがっている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に主役は入居者本人で職員はその方にあった支援を心掛けている		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれには職員も助言して常に清潔で暮らしやすいようにしてもらうよう心掛けている。美容なども希望をうかがっている		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者ひとりひとりの咀嚼・嚥下などや便秘・下痢などの健康状態に合わせた調理を行っている	畑で実った野菜を収穫し、食することを楽しみとしている。食べたい物を聞き取りメニューを作成している。お茶を入れたり、お茶碗を洗ったり、できる事を継続できるよう支援している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録をつけ、不足しないようにしている。ことある毎に入居者の好物や食べたい物を聴取し、献立に反映させている		

福岡県 グループホーム 元気の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時はスタッフ見守りにて、磨き残しのないよう注意している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を活用し、時間毎のトイレ誘導によって失禁をさせないよう努めている。また、できるだけ日中はトイレを使って排泄してもらえよう介助している	日中はトイレでの排泄を目指し、声かけ誘導を行っている。布パンツの方やパットが必要な方、リハパン等、利用者の状況に応じて個別に対応している。ストーマやバルーンの管理も行なわれている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録により排便間隔を把握、長期間の便秘がある場合は緩下剤などを与えて対応している。また夕食事に牛乳を飲んでもらう・朝食時はヨーグルトを摂ってもらうなどの工夫もしている		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湯の温度など希望にあわせくつろいで入浴を楽しんでもらっている	月水木金が基本入浴日となっている。失禁時はシャワー浴や下半身浴を行い、柔軟に対応している。薔薇の花を浮かせたり、八朔を入れたり、冬至にはゆず湯等、季節を味わいながらお風呂を楽しんでもらっている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの睡眠のパターンに合わせて安眠できるように心掛けている		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の飲む薬について薬局より貰う一覧表を何時でも見られるように置いており、薬の内容の把握に努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり食材の下準備など手伝ってもらいテレビ、本など好みに合わせて楽しんでもらっている		



福岡県 グループホーム 元気の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩を毎日の日課としているし、病院受診の時にドライブをしたりしている</p>	<p>毎日の散歩を日課とし、行けない方は日光浴をしている。近所の喫茶店に行き、食べ切れるサイズのミニパフェやコーヒーを煎れてもらう等、お店の協力が得られている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>理解力に応じてお金を所持している</p>		
53		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話はかけるし本人にもかかってくる。手紙の書ける人は手紙のやり取りも自由である</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じたディスプレイを心がけている。また、ホールや居室の窓から見える風景は自然の変化に富み(田畑の様子や庭の草花など)、入居者の情緒安定に一役買っていると思われる。</p>	<p>目につく場所に花を置いたり、飾りを付けたりして季節感のある空間にしている。センサー音がないため、静かで落ち着いた環境である。リビングから見える庭の木々や集まってくる鳥、色を変えていく田園など、風情を楽しむことができる空間となっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>トラブルが起こらないように席の配置に配慮したり、気の合う利用者同士が隣り合わせに座るよう誘導したりしている</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族にお願いし、出来るだけ本人が使ってきたなじみの家具を置いてもらうようにしている。</p>	<p>居室にはテレビや筆筒、テーブル等、使い慣れた物が置かれており、独自の空間が作られている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者の日々の活動に目を配り、過介護にならないよう、かといって介護不足で入居者を危険にさらさないよう生活して貰っている。</p>		